

南空知を 地域包括ケアの先進地に



2021年3月17日
職員向け講演会

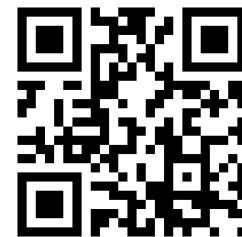
国民健康保険由仁町立診療所
医療福祉相談センター長 島田 啓志

2021年、センターは飛躍します

島田 啓志 (しまだ ひろし)

由仁町立診療所 医長

医療福祉相談センター長



【診療所HP】

今日は医療福祉相談センターの
将来展望をお話します

医療福祉相談センター

2021年4月からの新スローガン

「南空知を地域包括ケアの先進地に」

在宅医療の実践や連携を通じ、地域社会に貢献し、北海道南空知を地域包括ケアの先進地にします

▶ 当院の基本理念

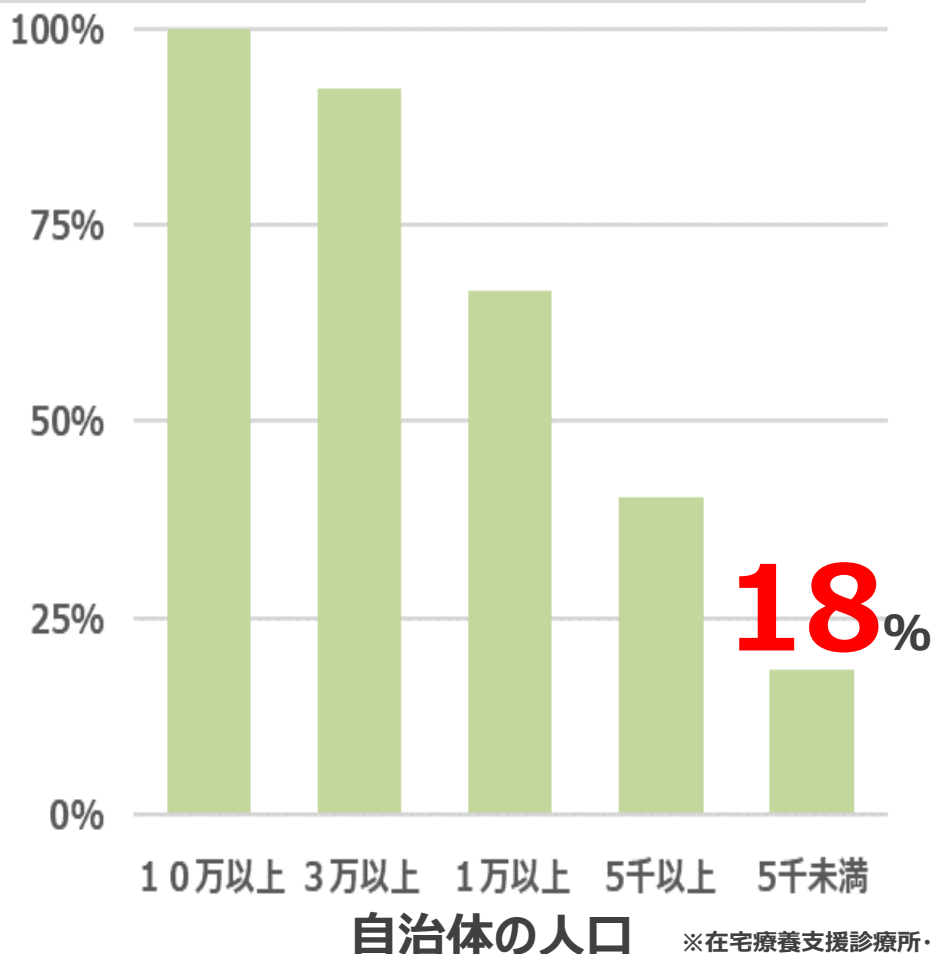
町民に安心と信頼感が持てる医療サービスの提供と保健・医療・福祉と連携した、地域医療の充実を目指します。

本日のコンテンツ

- 1、これまでの医療福祉相談センター
- 2、地域包括ケア充実への障壁
- 3、これからの医療福祉相談センター
- 4、まとめ

在宅医療の地域格差は明らか

24時間体制の在宅医療を行う医療機関※
を有する自治体の割合（北海道）



※在宅療養支援診療所・病院
出典：北海道厚生局施設基準(2021/1)

郡部ほど在宅医療を行う
医療機関が少ない

都市部と郡部での
在宅医療格差

社会的課題

由仁町人口 4931人

2018年

在宅患者は数える程度

由仁町立診療所の歩み

2018年3月

57床

病院



19床

有床診療所

2018年4月

医療福祉相談センター設置

2018年5月

訪問診療 開始

2019年

在宅療養支援診療所

2020年

在宅緩和ケア充実診療所

医療福祉相談センターについて

- ▶ (一般的な) 地域医療連携室
- ▶ 由仁町内の医療・介護の連携窓口
- ▶ 診療所の訪問診療部門立ち上げ
- ▶ 在宅療養推進事業の立案・実施

由仁町から依頼されたミッション

採用に関する事項(案)

1. 勤務関係

- 勤務場所 夕張郡由仁町馬追1番地の1
国民健康保険由仁町立診療所
(併設施設：由仁町介護老人保健施設ひだまり)
- 採用年月日 平成30年4月1日
- 任用期間 任期付による期限付の採用でお願いしますが、期限満了後、一般採用になる場合があります。

②訪問等診療業務に関すること

- ・特養施設への往診、軽費老人ホームの健康相談・訪問診療
- ・個別の訪問診療は現在行っていませんが、地域包括支援センターなど他職種連携を行いながら今後、訪問診療など在宅医療を構築していくための指導的役割をお願いします。(訪問診療の実施時期は、平成30年度中に検討)

在宅医療推進のための戦略

中核医療機関

①集約化 ②広域化



ミクロ

事例レベル
(ミクロ)

地域レベル
(マクロ)

③地域に根ざした実践



マクロ

郡部での在宅医療充実

 国民健康保険由仁町立診療所

① 中核医療機関へ集約化

郡部医療機関の現状

マンパワー

ノウハウ

不足

在宅医療
始める余力がない

まず **集約化**
24時間在宅医療開始

医師負担**軽減**
ノウハウ**蓄積**

24時間体制を
他医療機関に**無償**開放

②在宅医療を広域化

財政健全化判断基準（2018年度）

	1位	2位	3位	4位
実質公債費 比率	夕張 (71.8%)	由仁 (17.9%)	網走 (17.2%)	江差 (16.7%)
将来負担 比率	夕張 (440%)	岩内 (166%)	網走 (155%)	由仁 (150%)

出典：北海道HPより

当院の繰入額 **2億円/年**

合理的な経営
(一定数の在宅患者)
が必要

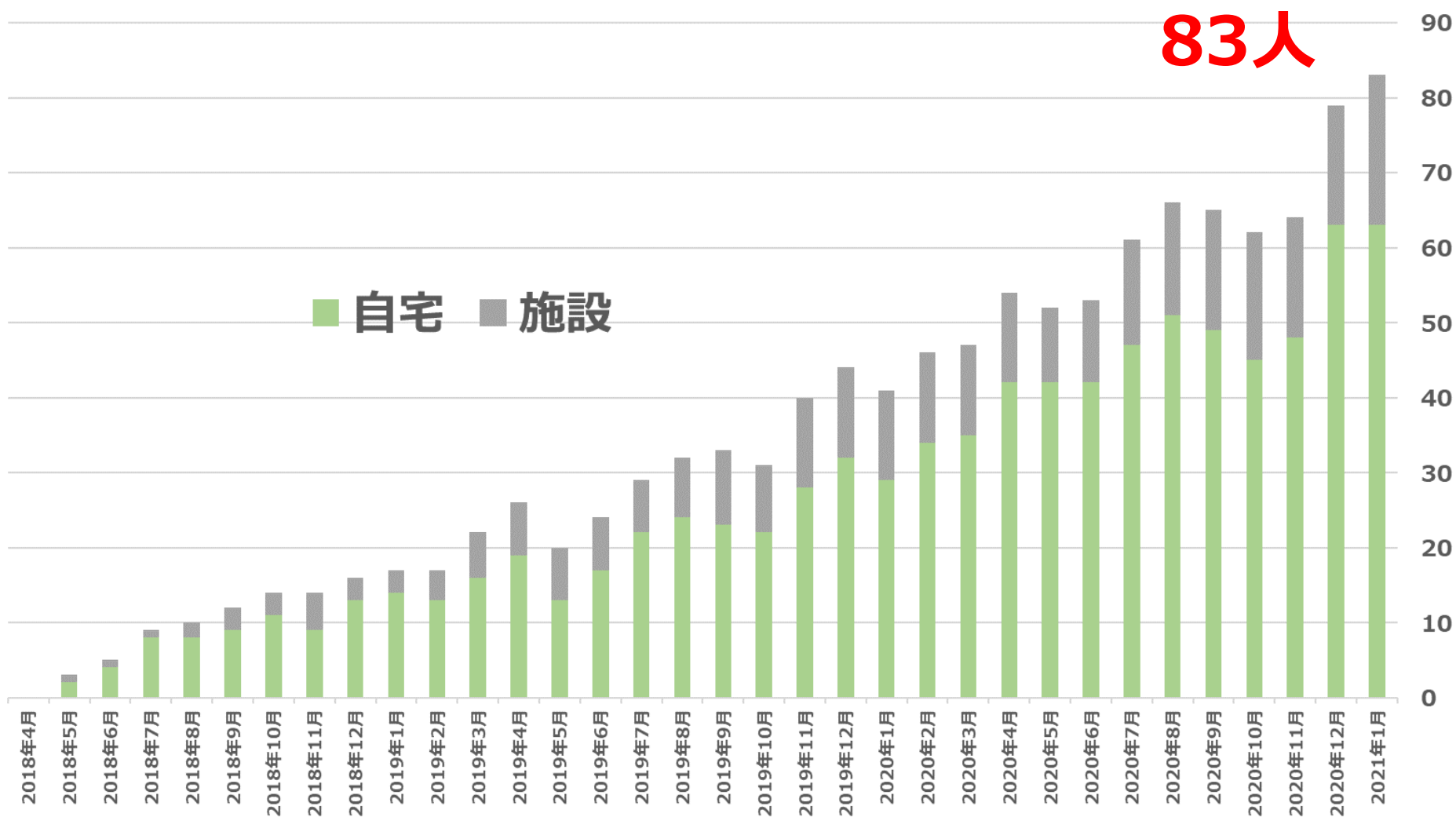
郡部の人口減少

各自治体毎の
大規模化は困難

やむなく**広域化**

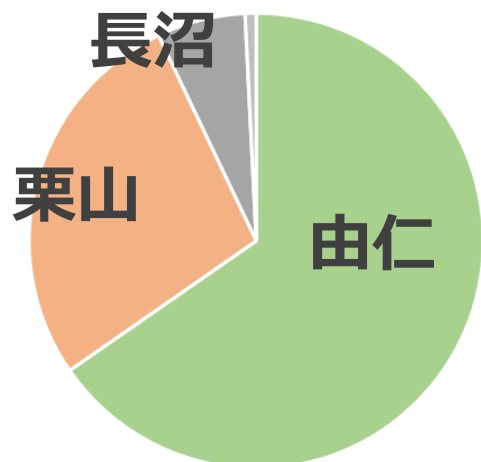
在宅体制の**無償開放**
& **各自治体協働**
広域化のデメリット軽減

訪問診療対象の患者数

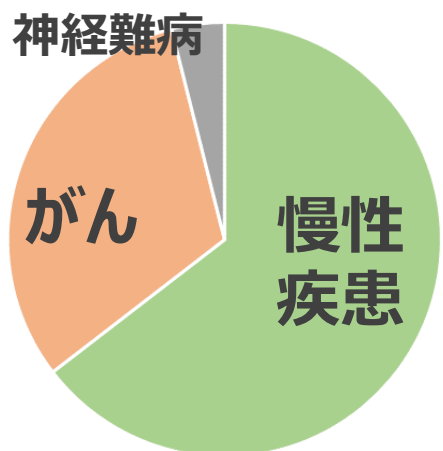


83人

当院の訪問診療 まとめ



対象患者は広域化



慢性期～終末期まで

在宅療養支援診療所

24時間365日往診体制

これまでに訪問診療を利用された方
187名

現在も訪問診療を利用されている方
95名

お住いで息を引き取られた方
48名

2020年 在宅緩和ケア充実診療所に

▶在宅緩和ケア充実診療所認定の主な要件

- 在宅看取りの実績 **20**人/年以上
- 医療用麻薬の使用実績 **10**人/年以上
- 注射による医療用麻薬の使用実績 **2**人/年以上

全道
在宅療養支援診療所
383箇所
 そのうち
在宅緩和ケア充実診療所
31箇所

出典：北海道厚生局(2021年1月)

1	ファミリークリニックこころ	札幌市
2	ひばり緩和ケアクリニック	札幌市
3	手稲家庭医療クリニック	札幌市
4	札幌在宅クリニックそよ風	札幌市
5	ホサナファミリークリニック	札幌市
6	勤医協札幌西区病院	札幌市
7	いまいホームケアクリニック	札幌市
8	静明館診療所	札幌市
9	ごう在宅クリニック	札幌市
10	東苗穂たんぼぼクリニック	札幌市
11	こだま在宅内科緩和ケアクリニック	札幌市
12	元町総合クリニック	札幌市
13	平澤内科呼吸器科クリニック	札幌市
14	栄町ファミリークリニック	札幌市
15	さつぼろみなみホームケアクリニック	札幌市
16	ホームケアクリニック札幌	札幌市
17	リバータウンクリニック	旭川市
18	北星ファミリークリニック	旭川市
19	サンビレッジクリニック	旭川市
20	ささえるクリニック岩見沢	岩見沢市
21	釧路協立病院	釧路市
22	ふたば診療所	釧路市
23	緩和ケアクリニック・恵庭	恵庭市
24	江別訪問診療所	江別市
25	本輪西ファミリークリニック	室蘭市
26	向陽台ファミリークリニック	千歳市
27	勤医協苫小牧病院	苫小牧市
28	函館稜北病院	函館市
29	函館おしま病院	函館市
30	本間内科医院	北見市
31	国民健康保険由仁町立診療所	夕張郡由仁町

すべて
市部

出典：北海道厚生局(2021年1月)

当院は 北海道郡部**唯一**の診療所

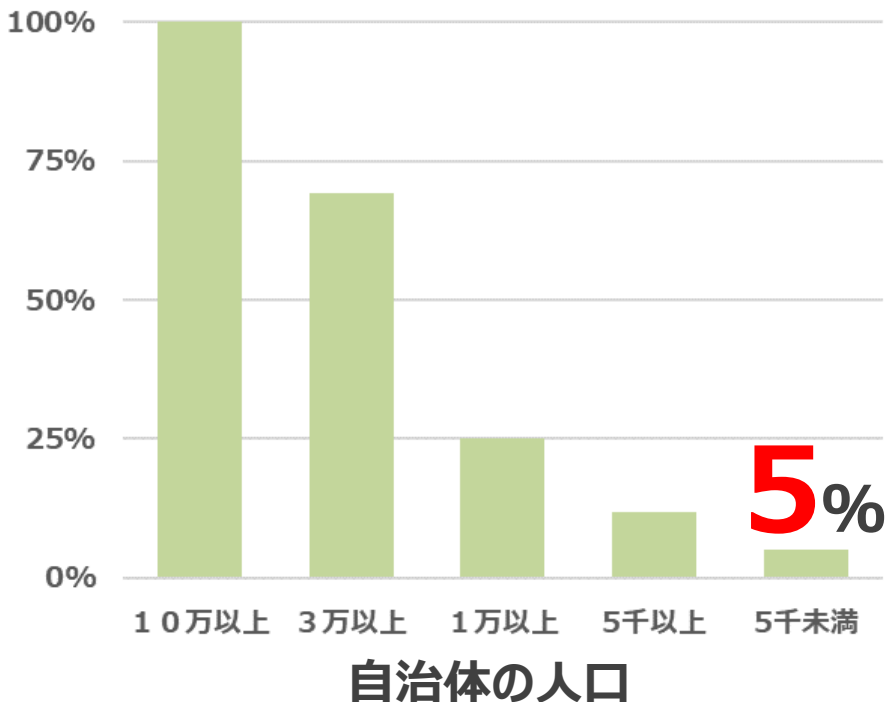
在宅看取り実績のある医療機関※
を有する自治体の割合（北海道）

人口1万人以下
124自治体

在宅療養支援診療所
32箇所

看取り実績あり
9箇所

年20人以上看取り実績※
由仁町立診療所のみ



※在宅療養支援診療所/病院のうち、機能強化型、在宅実績加算1, 2を算定している医療機関
出典：北海道厚生局施設基準

※在宅緩和ケア充実診療所

開設当初の当センターの目標は達成！

本日のコンテンツ

- 1、これまでの医療福祉相談センター
- 2、地域包括ケア充実への障壁**
- 3、これからの医療福祉相談センター
- 4、まとめ

在宅医療推進の目的

在宅医療推進の目的は、

在宅患者を増やすことではない

在宅医療推進の目的は、

**地域包括ケアを充実させ
地域社会を守っていくこと**



札幌集中のリアル

北海道新聞連載 2020年10月～



道内各地から札幌に移住する高齢者
4000人/年

出典：北海道新聞朝刊 2020/10/31

現役世代の介護職も札幌集中



道内各地から札幌へ流入する現役世代
9000人/年

出典：北海道新聞朝刊 2020/11/1

介護施設は札幌に一極集中



「現時点では、札幌以外の地域でのサ高住の展開は考えていない」と言い切る。入居者を支える人材の確保をはじめ、札幌と同水準の医療・介護サービスを維持できないと考えるからだ。

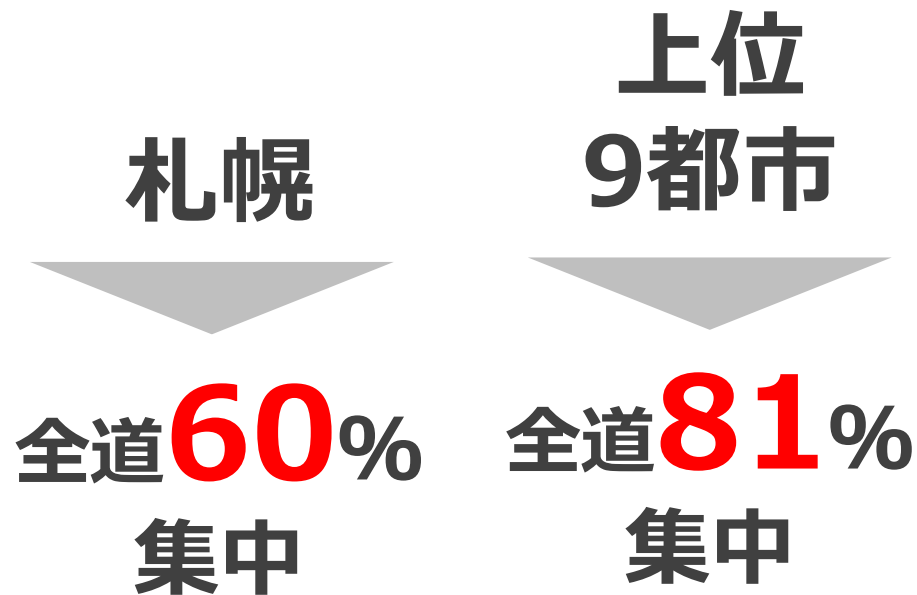
出典：北海道新聞朝刊 2020/11/2

サービス付き高齢者住宅の偏在

道内主要都市のサ高住の整備状況



出典：北海道新聞朝刊 2020/10/31



サ高住が一つもないの道内自治体は **120/179**

介護サービスの地域格差も明らか

郡部は「住まい」が少ない

由仁	介護度				
	自立	要支援	介1	介2	介3～
軽費老人ホーム					
グループホーム			※認知症のみ		
特養					
老健			※本来住まいでない		



「住まい」の状況	○	○	△	×	○
----------	---	---	---	---	---

要介護2の方が選べる施設がない

郡部は「介護・看護職」が足りない

▶ 既存の施設

→ **夜勤**のできる介護職不足

▶ 訪問ヘルパー不足

→ **希望の時間**でサービスが入れない

▶ 訪問看護師不足

→ **重度の方**の頻回訪問がぎりぎり

▶ 理学療法士(PT)不足

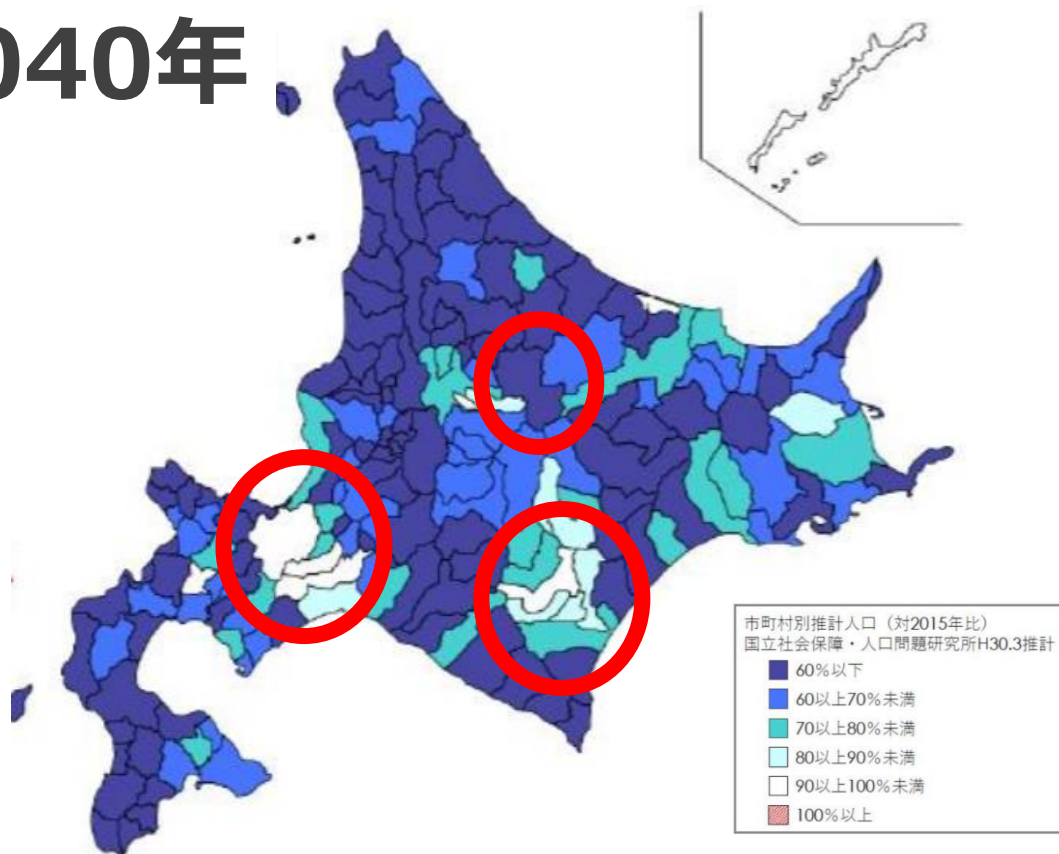
→ 昨年PT増員も、既にリハビリ**待機者**あり

訪問診療を行うだけで、

地域包括ケアを守ることができるのでしょうか？

都市への人口集中は加速

2040年



道内中核都市
人口集中

郡部は都市に
人材供給

郡部は人口半減

地域包括ケア最大の障壁 ▶ 人材不足

医療福祉相談センター

2021年4月からの新スローガン

「南空知を地域包括ケアの先進地に」

在宅医療の実践や連携を通じ、地域社会に貢献し、北海道南空知を地域包括ケアの先進地にします

在宅医療に注力する郡部の診療所として
地域のお役に立てることあるのでは？

今だけ・由仁だけ ではなくて
将来を見据え広く考え実行する

本日のコンテンツ

- 1、これまでの医療福祉相談センター
- 2、地域包括ケア充実への障壁
- 3、これからの医療福祉相談センター**
- 4、まとめ

3つの視点で 3年の目標

スローガンの実現のために

1、由仁町において

2、空知南部において

3、南空知圏域において

3つの視点で 3年の目標

スローガンの実現のために

1、由仁町における

ゆにクリ ホットライン24

ゆにクリ ホットライン24

ボタンでいつでも医療相談

由仁・独居高齢者宅の緊急通報装置 用途拡大

【由仁】町は、介護が必要な独居高齢者らの自宅に設置した緊急通報装置の用途を広げ、ボタンを押せば24時間、町立診療所の医師に医療相談できるようにした。「せっかくの装置がめ

ったに使われていないのは、もったいない」との思いから、町、診療所、警備会社がスクラムを組んで試行的に始めた。

(土屋孝治)

町、診療所、警備会社が連携

「体調がおかしいくらいでも、ボタンを押していいそう。いつでもお医者さまと電話で話せるというのは心強い」。自宅に装置がある女性(85)は、新サービス開始を喜ぶ。ただし、「緊急」と書かれたボタンを押すには「まだ勇気がいる」と苦笑いする。

新サービスの名称は「ゆ

にクリ ホットライン24」。通報先が消防署だったシステムを、見守り業務を重視する総合警備保障(東京、ALSOK)に切り替えたのを機に、1月から始めた。28人の利用者がいる。ボタンが押されると、まずガードマンが出勤。救急が必要な場合は119番に、利用者が医療相談を希

望するときには、町包括支援センターへ電話し、折り返し医師から電話が行く仕組み。医師は利用者の声を聞き①救急車を要請する②医師が往診に行く③経過観察を指示する④利用者の疑問に答えるーなどを判断する。

相談だけで済む場合は、利用者の負担はない。往診などの医療を受けた場合は支払いが生じる。ガードマンは基本的には、医師の指示が終わるまで付き添う。通常の緊急通報であれば、ガードマンが出勤し、利用者の家族へ連絡を入れて業務は終了するが、その後、家族が対応に困る例は少なくないという。ボタンが押されないうまま、室内で利用者が亡くなっていったこともある。

新サービス開始に積極的な診療所の島田啓志医師は「医療機関にあまりかかっていない比較的元気な人こそ、ボタンを押してもらいたい。押して相談すること慣れてほしい」と話す。



緊急ボタンを押して医師に医療相談ができるようにした装置

出典：北海道新聞朝刊地方版 2020/2/6

ゆにくり ホットライン24

ゆにくりホットライン24のご案内

緊急通報装置利用者の方々はALSOKガードマンの出動後、由仁町が独自で行う
24時間体制の医療相談（ゆにくりホットライン24）も利用することができます。

利用者

急な体調不良や火事などの緊急時は**緊急**ボタンを押しましょう。
ALSOKのガードセンターに連絡がいきます。

ガードセンター

ガードセンターでは、ガードマンの出動手配を行います。
※緊急性が高い場合は、110番や119番通報を同時に行います。

ALSOKガードマン

ガードマンが利用者さんの状態や安全の確認を行います。
医療相談の希望がある場合は
ガードマンから由仁町地域包括支援センターへ連絡を行います。

由仁町地域包括支援センター

由仁町の担当職員が、医師への医療相談の希望を確認し、
由仁町職員から当番医師へ連絡をします。

由仁町立診療所在宅当番医

医師から利用者宅へ折返しの電話があります。病状を伺った上、
利用者宅への**往診**や医療機関**受診手配**、**経過観察**を指示します
※医師への電話相談は無料。往診を実施した場合は医療費が別にかかります（健康保険適応）

郡部の診療所だからできる事業

訪問診療に登録した患者さんにのみ24時間対応するのではなく、普段、訪問診療を利用していない、地域の独居高齢者の方々が地域で安心して暮らしていけるように、当院の24時間往診体制を町内の緊急通報装置設置者にも拡大します。

由仁町民は、緊急通報装置を設置さえすれば、無料で在支診の往診体制を利用できます！
そのような地域は全国でも少ないのではないのでしょうか？

都市部には数多くの在支診がありますが、カバーする高齢者人口も多いため、訪問診療登録していない独居高齢者へのこのような対応は困難を伴うと思います。

しかし、由仁町は人口5000人弱。

緊急通報装置設置者全ての位置情報を把握し個別対応することが可能な人口規模です。

もともと由仁町は地域包括支援センターが24時間連絡先を住民に公表し対応する体制がありました。そして、当院は道内郡部唯一の在宅緩和ケア充実診療所で、去年は300件近い往診実績があります。ALSOKもガードマンが地域で24時間待機しています。

その3者をつなげただけのお金のかからない事業です。

あらゆる医療・介護資源は札幌に集中している現状がありますが、郡部は慢性的な人材不足です。その現状に嘆くだけでなく、郡部では郡部のやり方で地域包括ケアの充実を図っていきます

ゆにクリ ホットライン24の意義

- ▶ 自宅にいても施設の様な安心を
- ▶ 施設がないなら、地域を施設化する

「かかりつけだけ往診対応」ではなく

全ての地域住民が自宅でも安心して
過ごせるように在宅体制を無償開放

要介護者**全員**へ24時間往診対応する
独自の地域包括ケアシステムへの「第一歩」

組織存続が前提

対象を拡大できるかは当院の診療体制次第

経営的な整合性も必要

↓

往診対応患者が増えれば
当院が提供する全サービスのニーズは高まる
(他の病院では代替できないニーズがある)

有床診療所である意義

現在

当院の入院患者の**30%**が在宅医療経由
平均病床稼働数 11.9人 ▶ 在宅関連平均**3.5人**



将来予測

在宅患者が倍になれば**50%**が在宅経由に
平均病床稼働数 15.4人 ▶ 在宅関連平均**7.0人**

在宅患者のバックベッドとしての役割は増加

老健の存在意義

長期

全利用者の**20%**が訪問診療関連 (9/41名)

在宅に戻れず、施設にも入れないの方の「住まい」※
在宅患者さんの越冬・農繁期入所の受け皿

※本来ではないが、やむを得ない

短期

全利用者の**70%**が訪問診療関連 (14/20名)

レスパイト先 や 住まいの代替 として必要

在宅医療は経営的にも合理的

施設全体の収益



3つの視点で 3年の目標

スローガンの実現のために

1、由仁町において

2、空知南部において

3、南空知圏域において

3つの視点で 3年の目標

スローガンの実現のために

2、空知南部における

在宅医療コーディネート事業

在宅医療コーディネーター事業

空知南部医師会

在宅医療コーディネーター事業

地域住民の皆様が在宅療養を選択できるように
あなたに最適な在宅医を見つけます

空知南部の訪問診療
人口カバー率 100%

事業の概要

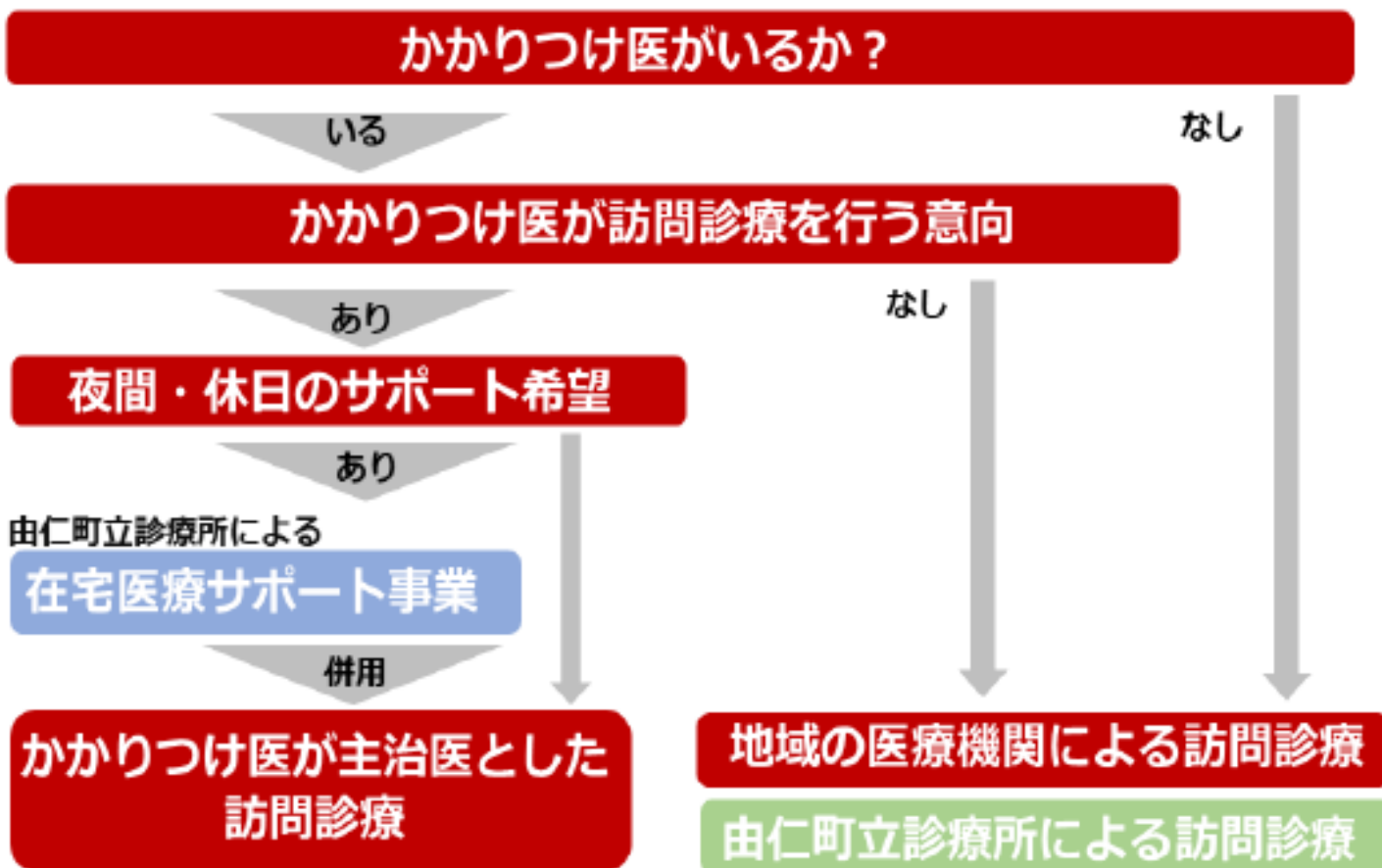
事業の概要

空知南部医師会による在宅療養推進事業です。
由仁町立診療所が空知南部の在宅医療に関するあらゆる相談を受け付けます。
また、相談者のニーズを確認し、地元で訪問診療を行う医療機関を調整
(コーディネート)します。相談料は**無料**です。

【対象地域】 栗山町・長沼町・南幌町・由仁町 **全域**

【相談対象】 お困りの方は**どなたでも**ご相談ください
住民の方、病院スタッフ、医療介護職など

コーディネートの流れ



- ＜地域の医療機関のコーディネート原則＞
- ・ 患者の意向が最優先
 - ・ 訪問診療可能な医療機関の中で患者宅と医療機関の移動距離が短い順

在宅患者数200名が目標

医療福祉相談センター

在宅患者数 **200** 名に対応が目標

当院だけでは訪問診療できない規模

在宅医療コーディネイト事業として
空知南部医師会との協働で達成する計画

医師会と連携し「人口カバー率 **100%**」を堅持

なぜ200人なのか？

空知南部の在宅医療ニーズ



※空知南部：長沼・栗山・南幌・由仁
※最大ニーズ：2015年の長野県南牧村における在宅医療実績値(後期高齢者574人に対して50人利用)を元に、将来の後期高齢者人口を乗じた
※最小ニーズ：2015年の全道における在宅医療実績値(人口10万人あたり407人利用)を元に、将来の後期高齢者の人口で乗じた

開始後の課題

コーディネート事業開始 2020年8月

- ▶ 相談件数**8**件 全件が当院での訪問診療
- ▶ 地元医療機関への紹介実績は**ゼロ**

本事業の目標は

当院の在宅患者数を増やすことではない
地元医療機関と協働した地域の**在宅医療充実**

在宅医療**サポート**事業を広めていくことがより重要

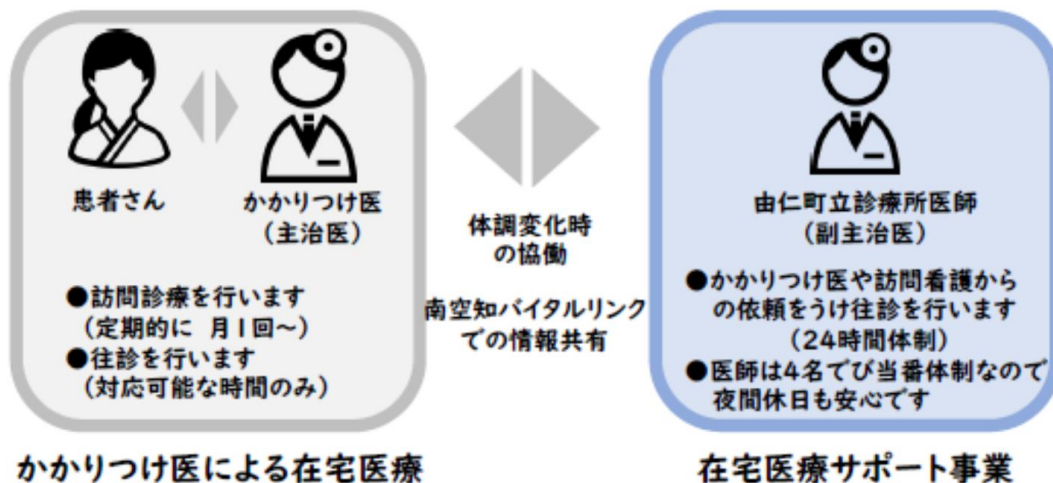
在宅医療サポート事業とは？

【由仁町立診療所の在宅医療サポート事業のご案内】

事業の概要

「通院が大変。かかりつけの先生は訪問診療をしてくれないだろうか？」

患者さんのかかりつけ医による在宅医療を、由仁町立診療所が副主治医となることで応援します。主治医が対応できない時（例えば夜間や休日）の「困った」には副主治医が電話相談・往診で対応致します。
かかりつけの先生方、訪問診療を始めてみませんか？



近隣医療機関への
在宅体制
無償開放

コーディネーター事業の別の意義

▶ 地域包括ケアの「すきま」へのアウトリーチ

地域では様々な「ケアのすきま」が発生

各医療機関は、かかりつけの相談のみ対応

包括支援センターは公的だが医療対応が不可 等

医師会 × 在宅医療

当院の在宅ケアの優位性を
医師会事業という公益性の下、地域全体に**無償還元**

医療福祉相談センター

2021年4月からの新スローガン

「南空知を地域包括ケアの先進地に」

在宅医療の実践や連携を通じ、地域社会に貢献し、
北海道南空知を地域包括ケアの先進地にします

在宅医療コーディネート事業は

空知南部医師会との連携を通じて、
地域社会貢献を実現する核となる事業

3つの視点で 3年の目標

スローガンの実現のために

1、由仁町において

2、空知南部において

3、南空知圏域において

3つの視点で 3年の目標

スローガンの実現のために

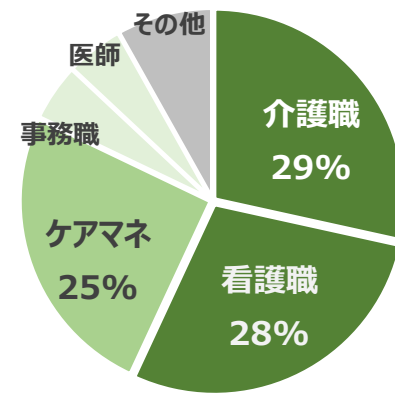
3、南空知圏域における

人材交流・人材育成の促進

3年間の実績



「看取り塾」



28事業所

141名

町内外の各種講演会・勉強会や寸劇・外部講師など

南空知圏域の課題

① 専門職がつながりにくい

南空知バイタルリンクの圏域運用

② 地域の人材不足

人材交流・人材育成の促進

南空知バイタルリンク

- ▶ 2021年 空知南部医師会初期導入 当センターが事務局
- ▶ 2021年**3月** 由仁町が採用

2021年1月	トライアル 開始
2021年3月	由仁町で本運用開始
2021年中	空知南部での運用を実現
3 年後	南空知圏域での運用を実現

(目標)

医療介護分野での組織**間**連携を容易にする

既存の自治体をまたぐ広域連携の手法に
変革を与える可能性を秘める

南空知バイタルリンクの実績

	由仁町	栗山町	長沼町	南幌町	岩見沢市ほか
医療機関	牧野内科医院 由仁町立診療所				
ケアマネジャー	由仁町社協居宅	ケアセンターくりやま プロケアすばる くらしさ栗山	迎光園居宅		
訪問看護 ステーション			長沼地域訪問看護 ステーション なごみ		まちの看護師さん 心護 ポリス（江別）
ヘルパー	由仁町社協サービス ステーション	プロケアすばる			
訪問リハビリ	由仁町立診療所			Re.ハッスル	
デイサービス	由仁町社協デイサ ービスセンター	プロケアすばる			
ショートステイ	ひだまり ほほえみの家				
薬局	ゆに・ハーブ薬局	なの花薬局栗山店 吉井龍雲堂 吉井調剤薬局	吉井調剤薬局長沼		
歯科医院		永山歯科医院			
包括センター	由仁町包括	栗山町包括			
施設等	団炉裏	プライエボーリくりやま サンヴェレツ栗山 廣樹庵			

【2021年3月15日時点実績】

事業所数	32
利用者数	65
患者数	131
書き込み数	1102

既に多くの参加
多職種がつながる
事例以外でも活用可

南空知保健医療福祉圏域連携推進会議に提言等行い、

3年内に全南空知圏域でバイタルリンク運用が目標

南空知圏域の課題

① 専門職がつながりにくい

南空知バイタルリンクの圏域運用

② 地域の人材不足

人材交流・人材育成の促進

人材育成

地域で行われている人材育成に協力

【学生】
看護学校
いのちの授業
介護学校

【専門職】
看取り塾

【職種とわず】
職場体験
訪問診療同行

地元での現場のリアルに触れることなくして
地域への愛着が湧くことはない

郡部だから伝えられることがある

人材交流

当センターの地域貢献が成功し地域包括ケアが深化
南空知の郡部に「**学びの場**」としての魅力↑

中核の岩見沢との人材交流（循環）の可能性
市部⇔郡部の相乗効果を生む連携

例えば**医師（研修医）**

▶ 魅力的な地域医療研修のできる地域を持つことは、岩見沢の研修指定病院の人材確保にも有利に働く など

例えば**看護師**

▶ 地域包括ケアを実践する看護師と急性期病院の病棟看護師が交換で短期人材交流しOn the job training

- ▶ 市部にもメリット & 郡部のデメリットを軽減
- ▶ 市部と郡部は人材確保面でもパートナーになりうる

南空知圏域である意義

人材育成

人材交流

即効性はなく効果評価も困難

札幌一極集中の流れは変わらない



南空知は札幌への近接性から地理的**メリット**
医療圏全体でスクラムを組み、流れに抗う

関連する**圏域全体**の価値をあげることが重要

本日のコンテンツ

- 1、これまでの医療福祉相談センター
- 2、地域包括ケア充実への障壁
- 3、これからの医療福祉相談センター
- 4、まとめ

「南空知を地域包括ケアの先進地に」

地域医療の実践や連携を通じ、地域社会に貢献し、北海道南空知を地域包括ケアの先進地にします

まとめ

「私達には実現したい社会がある」

在宅ケアの専門性を活かし、誰もが「実現してほしい」「応援したい」と思える事業を立案・実行し、地域社会に貢献力になりたい人材がさらに集まることを信じて、頑張る

「鋭い刀の照り返す光は鈍い」

既に、皆様は強力なパートナー

新スローガンの実現が
医療福祉相談センターの将来展望です